

**特集 安心で暮らしをつなぐ**  
医療の充実という視点



宮下宗一郎  
下北医療センター管理者



橋爪 正  
下北医療センターむつ総合病院院長

むつ総合病院血液浄化センターが、いよいよオープンいたします。下北一円で透析治療が必要な、より多くの方々に安心してご利用いただけるよう、50床のベッドと最新設備を備えた、快適な空間の整備に努めました。

腎友会の皆様からの要望を受けて始めた本事業ですが、振り返ってみると、これは私としては「命の要望」だと受け止めました。当センターは、透析ベッド数の拡大により、順次圏域外に通われている患者さんの受け入れを行なっていくことになります。一日でも早く、一分でも一秒でも早く、当センターで受け入れられるようになることを切に期待しています。このことについては、むつ総合病院が総力を挙げて取り組んでまいります。また、本日お越しの各病院関係者の皆様にもご協力をお願い申し上げ、私ども下北医療センターとしても惜みない協力を約束させていただきます。

当センターのオープンに当たって医師の確保にご協力いただきました弘前大学大学院若林医学研究科長、大山泌尿器科学講座教授ほか関係者の皆様に深甚なる感謝を申し上げます、本日この日がむつ総合病院改革の歴史的な一ページになることを大いに期待いたします。

むつ総合病院の血液浄化センター落成にあたり、多くの関係者の方々に御出席を賜り、誠にありがとうございます。新しい血液浄化センターの完成について、関係者の方々にみなさまとともに心から喜びを分かち合いたいと思います。

昨年6月の着工から落成まで、大きな問題もなく工事は無事に進行したと聞き及びます。短期間にもかかわらず、集中して工事に関わっていただきました関係者各位に、改めて深く御礼を申し上げます。

これまで不自由を強いられていた、むつ下北圏域内で血液透析や維持透析を必要とする患者さんは、新しい血液浄化センターの稼働により、大きな恩恵を受けることとなりました。しかし、施設は新しくなっても、そこで働くスタッフひとりひとりの理解と熱意がなければ、本当に必要な医療を提供することは不可能です。

わたしたちは、患者さんが安全安心の透析治療を受けることの出来るよう、これからも最大限の努力を続けることをここに誓います。

あわせて、関係者の方々からの今後のご協力のご尽力を引き続き宜しくお願い申し上げます。

血液浄化センターオープン記念  
**市民公開講座**  
テーマ：腎臓を大切に  
健康長寿を実現しよう  
日時：平成29年4月30日(日) 10時00分～11時30分  
会場：むつ市立図書館内 視聴覚ホール  
講師紹介  
弘前大学泌尿器科学講座 教授 大山 力 氏  
1957年 岩手県内子市生まれ  
1980年 弘前大学医学部 卒業  
1984年 東北大学医学部 泌尿器科入局  
1990年 東北大学医学部 泌尿器科助産  
2001年 東北大学医学部泌尿器科 助産部長  
2002年 弘前大学医学部泌尿器科 教授  
2004年現在 弘前大学医学部泌尿器科 教授

血液浄化センターオープン記念として、市民公開講座を開催。  
〈いつ〉4月30日(日)  
午前10時～  
〈どこで〉図書館  
〈テーマ〉腎臓を大切に  
健康長寿を実現しよう



本格稼働を前にした3月25日(土)、血液浄化センターの落成式が行われ、多くの関係者が見守るなか、テープカットおよび内覧会が開かれた。

表紙  
4月7日(金)  
奥内小学校  
新1年生の  
3人。

目次 contents  
2 特集 安心で暮らしをつなぐ  
6 図書館だより  
7 エイミーの三モヤマ話他  
8 information  
16 健康コーナー  
17 消費生活センターだより他  
18 あつと陸奥  
20 この人むつちゅ星他

MUTSU  
-みんなつながるむつ市の総合情報誌-  
5  
2017  
vol.35



むつ総合病院泌尿器科部長  
血液浄化センター部長

**吉川 和暁** 医師

平成17年よりむつ総合病院に勤務する泌尿器科専門医。  
血液浄化センター医療スタッフの中心となる。

**血液透析療法の原疾患**  
透析が必要になる場合の原疾患は多くが糖尿病です。下北の場合、糖尿病の罹患率は全国平均より5%上回ります。これは、下北に糖尿病の専門医がいないことや啓蒙活動が実を結んでいないこと、生活習慣も大きな原因です。

透析に至る症状はギリギリまで出ません。気づいたときは遅いというパターンが多い。だから、日頃から人間ドックやかかりつけの内科医にきちんと通うことが大切ですが、下北の方はそういう方が少ない気がします。

**体力的負担の解消**  
これまで、患者のみなさんに対して「ここでは治療ができません。」と非常に冷たいお願いをしてきました。体力を使う治療でありながら、遠方の病院へ通うことになるのですからね。しかし、当センターが開設されることにより、段階的ではありますが、今より70名ほど多く受け入れられることとなります。市内で治療を受けられるようになることで、体力的な負担が軽減する方が増えるということが、今回の開設の最大のメリットです。

**安心の医療のために「願いと決断」**  
また、当センターはワンフロアで見通しが良く、ベッドの間隔が広い作りで、スタッフの医療行為がスムーズに行える安全に配慮された施設です。

当センターは、患者のみなさんの要望に心を動かされた市長の決断によるものと理解しています。みなさんのあくなき行動力にエールを送りたいと思います。

**医療の充実 × 負担の軽減**

**センター開設は本当にありがたい**  
私たちむつ地区腎友会は、平成25年より活動を本格化させ、年に数回の勉強会や食事会での交流を深めています。そして、その活動のなかで幾度となく、透析環境の整備や医師、看護師の確保にかかる要望活動も行なってきました。医療機関からは、これ以上院内に透析施設を拡張できるスペースがない

**血液透析療法を受けるとのこと**  
私は、60歳から現在までむつ総合病院にて11年間透析治療を続けています。透析治療は週3回の通院で毎回4時間。治療直後は、時には体がだるくなったり、不調を感じることもありま

す。地元

青森県腎臓病患者連絡協議会  
むつ地区腎友会 会長

**前田 和夫** 氏



(一社)全国腎臓病協議会が発行する会報「ぜんじんきょう」を持つ前田さん。表紙の木の木の人の人形は前田さんの手作り作品。

市、三沢市などの病院に行かざるをえなかった方々の負担はいかばかりかと、長い間案じていました。

ことや、全国的な医療従事者の確保の困難さから、他透析施設への転院の案内を示されたこともありました。また、故郷の下北に十分な透析施設がないために、帰って来られないという方の話も聞いたことがあります。

そういったなかで、今回血液浄化センターが開設され、地元で治療を受けられる人が増えることは本当にありがたい。要望活動を行なってきて本当に良かったと思います。

**腎友会会長として**

現在むつ下北圏内にいる患者のうち、むつ地区腎友会に所属するのは27名程です。透析患者がより良い生活を送ることができるまちづくりのために、ぜひ患者のみなさんの入会をお待ちしています。